

1. 基本精神・学校教育目標

私たちは、『地域の期待に応え、地域から信頼される学園』として、新しい時代に、『志と誇りを持って、いきいきと生きる人間』を育成します。

2. 学校像

人間力・特性を伸ばす
 ◇挨拶日本一
 ◇自律・自立・貢献

3. 運営理念

輝く 生涯にわたって生きて働く力をつける
 □人格の陶冶 □高い志と誇り □自立・自己成長・社会貢献

↑
 極める 探究し 特性を発揮する
 □学力の伸長 □豊かな情操と強固な意志 □健やかな身体・運動能力

↑
 徹する 集中し 磨く
 □知・徳・体のバランスのとれた教育 □基礎基本の徹底 □自律・礼節

4. 運営目標・評価項目・達成状況

運営目標	短期運営目標	本年度行動計画	評価指標	前年度	本年度		評価	運営目標の達成状況
				実績値	目標値	実績値		
学力の向上	・学力の向上 ・意志を大切に した進路指導の 充実 ・授業力の向上	・普通科では、最難関、難関、総合進学、スポーツ芸術の4コースが3学年揃い各コースの特性を伸ばし充実を図る。また、各分掌や担任、教科と連携して、国公立大学及び難関私立大学の合格者数を増加させる。 ・工業科では授業の質を高め基礎・基本を定着させ、かつ資格取得のための技能習熟度を向上させる授業や補習に取り組んで即戦力として通用する”人材”を育成し、23年連続就職希望者内定率100%を目指す。	・合格者数 (過年度含) ・就職内定率	41名 (42) 100%	43名 100%	38名 (43) 100%	5	習熟度別、少人数制の授業に加え、難関大学向けの学習充実を図り、学力の向上に努めた。授業を中心とした学力向上指導を充実させ、さらに補習や個別指導を徹底して、国公立大学に21名、難関私立大学に22名が合格した。国公立大学の合格者数は昨年度より5名増加し、さらに、大阪大学、名古屋大学、岡山大学に合格者がでた。私立大学合格者数は144名となった。教科指導満足度は生徒94%、保護者97%となっており、進路別受験指導や面接指導に高い評価を得ることができた。さらなる教育効果や成果を目指してアクティブラーニングなど授業の展開方法の工夫・改善などを進めるとともに、関係分掌・学年・担任・教科会との連携を強化する。工業科では、授業の質を高めて基礎・基本を定着させ、実社会で生きて働く力の育成に努めた。23年連続で就職希望者内定率100%を達成した。一方、進路指導(進学・就職)において方法の最適化を目指した更新の必要性が明らかになった。
		・各コースの特徴を生かし、生徒の進路設計を具体化して、自己の進路目標を達成するコース選択や学力・技能等を伸ばし、人生観・世界観・職業観・勤労観等を培う。	進路指導に関するアンケート	満足度 保護者93% 生徒95%	満足度 保護者94% 生徒96%	満足度 保護者95% 生徒98%	5	三者懇談を2回以上、2者懇談も5回以上実施し、進路希望調査を定期的に変更することを通して、早い段階から進路目標を決定して面接・小論文指導などにも取り組み、就職試験や推薦入試、一般入試において成果を上げることができた。また、進路指導満足度は生徒98%、保護者95%を達成し高い評価を受けた。
		・校内外の教科研修を充実させる。言語活動及び課題発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学び(「アクティブラーニング」)を重視した研究授業を実施し、授業力を高める。	教科指導に関するアンケート	満足度 保護者95% 生徒93%	満足度 保護者96% 生徒94%	満足度 保護者97% 生徒94%	5	一度目の研究授業を行い、その課題と反省を科内協議会で検討し、その対応を反映した確認授業を2度目の研究授業として実施した。これにより、従来は確認できていなかった課題と対応の反映状況を確認することができ、授業改善を具体化することができた。全校生徒を対象として各種アンケートを実施した。今年度は教員のアクティブラーニングに対する取組み意識が希薄化している傾向が現れており、来年度は活性化対策を検討する必要がある。
豊かな心の育成	・かかわりきる 生徒指導の 推進 ・クラブ活動の 促進 ・特色ある教育 内容の 展開	・「挨拶日本一」の指導を徹底し、礼節や規律を重んじる姿勢や目標に向かって努力する態度を養う。「生徒一人一人を大切に」「組織的に」「オープンに」を掲げ、挨拶・身だしなみ強化月間を年3回実施し、よりよい校風の樹立に全教職員が一体となって努める。	生徒指導に関するアンケート	満足度 保護者96% 生徒93%	満足度 保護者97% 生徒94%	満足度 保護者96% 生徒89%	3	全教員が体系的に、一人一人の生徒に対して粘り強く指導を継続し、また、挨拶が定着しつつあり、身だしなみも定期的に指導することで確実に良くなった。しかし、アンケートでは生徒の満足度が89%という調査依頼一番低い数値となり、要因や対策が必要となった。体罰・暴言やいじめのアンケートを実施し、生徒・保護者の意見を吸い上げていくとともに今後は、統一した指導体制のもと、きめ細やかな指導を粘り強く継続していくことが大切である。また、1学年のQU調査は新入生の学級運営をする上で有効であり、個々の生徒指導にも効果的であった。
		・クラブ加入率の増加を図り、文武両道を志向する部活動を通じて、「知」「徳」「体」兼備の人材を育成する。	クラブ加入率	90%	91%	90.3%	4	文武両道を志向する生徒が大半であり、クラブ加入率は90.3%であった。さらに、生徒が各クラスに位置付き、目的を持って学校生活を送れるよう、担任とクラブ顧問とが緊密に連携していく。一方で、クラブ運営や指導に関し、健全で安心安全な活動を保障できるよう教員間で互いに開き合い高め合う必要性が明らかになった。
		・体育祭・文化祭・修学旅行・学習合宿等の内容の充実を図り感動ある学校行事にする。また、高校1年生に「7つの習慣」の授業を実施しすべての教育活動に活用するグローバル教育を推進して、国際交流を積極的に進めコミュニケーション能力を培うとともに国際感覚を養う。	学校行事等に関するアンケート 作文	90%	91%	93%	5	アンケート調査では、体育祭90%以上、修学旅行94%以上の生徒が満足であるという結果が得られた。学習合宿においては、学習意欲の向上と効果的な学習方法の着実な促進ができた。また、高校1年生に導入している「7つの習慣」の授業について毎回の振り返りや感想シート、発行している「7通通信」では肯定的なものがほとんどであり、生徒の満足度は100%に近い。今年度、初めてスプリングスクールを実施し充実した研修内容に生徒の満足度は高かった。また、2学年全員による台湾修学旅行、常時2名の留学生の存在など国際交流活動を積極的に行った。
学校体制の充実	・信頼される 学校づくり ・生徒募集の 強化 ・学校組織の 機能化及び 人材の育成	・「萌黄」[「学級通信」]を継続発行して保護者と連携を図る。「フォーサイト」を積極的に活用して個々の目標にしっかりと取り組むことで、クラス目標、学年目標、学校目標を達成する。	教育全般に関するアンケート	満足度 保護者96% 生徒93%	満足度 保護者97% 生徒94%	満足度 保護者95% 生徒94%	5	平成30年7月豪雨による被害のための臨時休校や、長期間にわたる公共交通機関の運行制限等が発生し通常授業を実施することが困難な状況が続いた。その中で短縮授業の活用や授業の組換えを行い、各教科・科目の実施率を均等に近づけるとともに、平均実施率95%を確保する対応を継続して実施した。また、英語科を中心に外部講師を招聘し、専門的な立場から指導助言をいただいた。今後、生徒に育成すべき力と教科教育に求められる具体的指導法について考える契機となった。
		・企画広報・募集部を中心に、全教員が塾や小学校・中学校の児童・生徒及び保護者に積極的に働きかけ、協働して高校260名以上の入学者を確保する。	入学者数	240名	260名	234名	4	「7つの習慣」では様々な講座を開講するとともに、クラブ活動やコンクール・コンテストを実施し、「7つの習慣」を中心とする公開講座や地区別説明会を開催し、本校教育の広報、生徒募集活動に努めた。また、企画広報・募集部を中心に小・中学校訪問を、全職員で塾訪問を行った。入学生徒は内部進学を含め234名となり、目標の260名を達成出来なかった。工業科の入学者が予定数より少ない状況が7年連続している。分析・調査を踏まえて募集戦略の検討を行い、尾三地区はもとより福山地区への効果的な手段の構築に努める。
		・校内外の研修を通して、教員が自己研鑽を実践するとともに、組織の一員として自発的、意欲的な動きや達成感を高めることを通じて人材の育成を図る。	実施状況	教員研修 40回	教員研修 42回	教員研修 40回	5	教頭・事務室を中心に諸会計の明瞭化を促進し、会計に対する説明責任に係る意識の定着を図っている。また、今年度卒業生の全体満足度は、学年設定目標を90%以上としていたが、生徒94%、保護者95%であった。特に、学校行事・クラブ活動における感動的体験に関するコメントが多く寄せられた。